

福祉



しろふく はるお 議員が問う

ひきこもりと8050問題

行政と地域との連携を図っていく

質問を終えて

不登校児童からそのままひきこもりになる要因はわかりづらい。今後も支援に力を入れてほしい。

映像はこちら



白水 子供のひきこもり、特に不登校からなるひきこもりの子どもの実態と須恵町としてのひきこもりの対応策はどのようにされているか。

学校教育課長 不登校からなるひきこもりの実態については児童生徒の全てが何らかの教育的支援、福祉的支援を受けており、ひきこもりとの関連は把握をしていない。対応策についてはこども家庭課や児童相談所等との他機関とも連携協力しながら対象者の社会的自立に向けて支援を行っている。

白水 成人したひきこもりの実態がわかりづらい原因として、親の介護や世間体を気にして、ひきこもりを隠して自立を妨げられている方の支援策はあるか。

福祉課長 専門の機関や粕屋町にある自立相談支援事務所「困りごと相談室」につなげる事で支援を行っている。

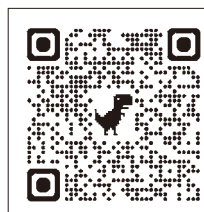
白水 8050問題は80代の親が50代の子の生活を支え、経済的にも精神的にも強い負担を負うという社会問題である。現在、全国でひきこもり支援センターが設置され必要な支援が受けられるが町として活用されているか。

福祉課長 福岡県ひきこもり地域支援センターにつなげており、令和5年度は当該センターが実施している「ひきこもり相談会」を庁舎内で実施し、支援の窓口を拡充している。

白水 包括的な支援体制の構築を推進するために、重層的支援体制整備事業が創設されているが、これに関して町の全体像を聞かせてもらえるか。

福祉課長 包括的支援体制を構築するために相談支援事業参加支援事業、地域づくり支援事業を一体的に実施するもので、全ての方々が住みなれた須恵町で末永く安心して、

自分らしい生活が続けていくことができるよう行政と地域関係団体等との連携を図っていく。



ひきこもりを知らう！厚生労働省。



まちづくり

たのうえ まこと 議員が問う

世界に開かれた須恵町へ

国際交流協会は必要

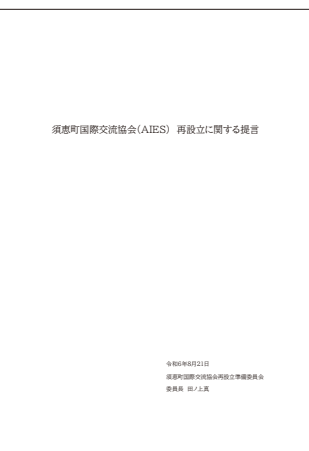
質問を終えて

再設立準備委員会の提言書が採用されたと認識できる答弁だった。再出発は、地域や企業の協力も得て、オール須恵町を実現してほしい。

映像はこちら



田ノ上 「須恵町国際交流協会」が3月末に活動を停止し、解散状態になっている。残された役員の中から再設立準備委員会を結成し、議論を重ねてきたところ、先日素案がまとまり、提言書として提出できた。日本社会の国際化の流れは進行している。町内で外国人と触れ合う機会も多くなったが、外国人も地域社会の一員として交流を深め合うことが大切になってくる。新生「須恵町国際交流協会」は、町民の国際相互理解を深め、多文化共生社会の実現、国際社会に対応した開かれた魅力あるまちづくりに寄与することを目指してもらいたい。そのためには盤石な体制を期す必要がある。オール須恵町で取り組まなければ、成功できないと思われる。町長のお考えを伺いたい。



提出された提言書

くる。そこに国際交流協会の重要性を感じている。企業、地域、学校などの組織、そしてボランティアによる関わりが重要と感じる。「須恵町国際交流協会」再設立は、いろいろな問題に対する多方面からのアプローチができる取組が望ましい。

町長 この日本という国は、外国人を無視してはやっていけない。過去の協会と、新たな協会は、役割が変わってくる。須恵町の中で働いて下さる、いろんな外国出身の人た

ちが、来てよかったと思ってもらえる付加価値をつける。その上で、彼らの健康状態とか生活状態とか、そういうことも支援していく。そのことがこれからすごく大事になっていく。国際交流協会は残すべきだと思っている。須恵町でよかったなど、思われるような交流、サポート、須恵町の安定した労働力も含めて、文化交流も含めて、やっていくべきだろうと思っている。



国際交流協会のパーベキューパーティー。大勢の外国人の方に参加していただきました。